

岡村秀典教授著作目録

編著書

- 『世界の大遺跡9 古代中國の遺産』(共著) 講談社、一九八八年六月
『椿井大塚山古墳と三角縁神獸鏡』(共著) 京都大學文學部博物館、一九八九年四月
『番塚古墳』(編著) 九州大學文學部考古學研究室、一九九三年三月
『東北アジアの考古學研究』(共著) 同朋舎出版、一九九五年三月(中國語版)
『東北亞考古學研究』文物出版社、一九九七年八月
『青銅器の圖象記號による殷後期社會の研究』科研費(基盤C) 成果報告書、一九九七年三月
『三星堆 中國五〇〇〇年の謎・驚異の假面王國』(共著) 朝日新聞社、一九九八年四月
『故宮博物院13 玉器』(共著) 日本放送出版協會、一九九九年二月
『中國古代王朝形成期における畜産と動物犠牲の研究』科研費(萌芽) 成果報告書、一九九九年三月
『三角縁神獸鏡の時代』吉川弘文館、一九九九年五月
『中國古代都市の形成』(編著) 科研費(基盤A) 成果報告書、二〇〇〇年三月
『世界美術大全集 東洋編第一卷 先史・殷・周』(編著) 小學館、二〇〇〇年九月
『中國沿岸における龍山時代の地域間交流』(編著) 科研費(基盤C) 成果報告書、二〇〇二年三月
『文家屯 一九四二年遼東先史遺跡發掘調查報告書』(編著) 眞陽社、二〇〇二年三月
『シンボジウム 三角縁神獸鏡』(共著) 學生社、二〇〇三年五月
『夏王朝 王權誕生の考古學』講談社、二〇〇三年十二月
『中國古代王權と祭祀』學生社、二〇〇五年一月
『日中戰爭期の中國山西省における調査資料の再檢討』(編著) 科研費(基盤C) 成果報告書、二〇〇五年三月
『國家形成の比較研究』(編著) 學生社、二〇〇五年五月
『雲岡石窟』遺物篇(編著) 朋友書店、二〇〇六年二月
『夏王朝 中國文明の原像』講談社學術文庫、二〇〇七年八月。中國語版(秦小麗譯) 『夏王朝 中國文明の原像』大象出版社、二〇二三年二月
『北魏時代の平城と雲岡の歴史考古學的研究』(編著) 科研費(基盤B) 成果報告書、二〇〇八年三月
『中國文明 農業と禮制の考古學』諸文明の起源六、京都大學學術出版會、二〇〇八年五月。中國語版(陳馨譯、秦小麗校) 『中國文明・農業と禮制の考古學』上海古籍出版社、二〇二〇年九月
『シルクロード發掘七〇年 雲岡石窟からガンダーラまで』(編著) 臨川書店、二〇〇八年九月
『中國初期佛教寺院とその源流にかんする考古學的研究』科研費(基盤B)

成果報告書、二〇一二年三月

『雲岡石窟』第一期（總監修、全七卷二五冊）科學出版社東京、二〇一三年十二月。中國語版、科學出版社、二〇一四年三月

『雲岡石窟』第二期（總監修、全九卷一八冊）科學出版社東京、二〇一四年十二月。中國語版、科學出版社、二〇一六年一月

『雲岡石窟の考古學』科研費（基盤B）中間報告書、二〇一五年六月

『中國中世青銅器の研究』科研費（基盤B）中間報告書、二〇一五年六月

『後漢鏡銘工傳』科研費（基盤B）中間報告書、二〇一五年六月

『鏡が語る古代史』岩波新書、二〇一七年五月

『雲岡石窟の考古學 遊牧國家の巨石佛をさぐる』京大人文研東方學叢書三、臨川書店、二〇一七年六月。中國語版（徐小淑譯）『雲岡石窟的考古學研究』四川人民出版社、二〇二一年十月

『雲岡石窟』第三期（編著、全四卷九冊）科學出版社東京、二〇一七年八月。中國語版、科學出版社、二〇一八年六月

『東アジア古代の車社會史』臨川書店、二〇二二年七月

論文

『前漢鏡の編年と様式』『史林』第六七卷第五號、一九八四年九月

『秦文化の編年』『古史春秋』第二號、一九八五年八月

『鐵製工具』『彌生文化の研究』第五卷、雄山閣、一九八五年十月

『編鐘の設計と構造』『泉屋博古館紀要』第三卷、一九八六年三月

『吳越以前の青銅器』『古史春秋』第三號、一九八六年八月

『中國の鏡』『彌生文化の研究』第六卷、雄山閣、一九八六年一月

『滋賀縣雪野寺跡の測量調査』（共著）『史林』第七〇卷第四號、一九八七年

『西王母の初期の圖像』『歷史學と考古學』高井悌三郎先生喜壽記念論集、眞陽社、一九八八年一月

『中國の青銅器文化』『季刊考古學』第二七號、一九八九年五月

『三角縁神獸鏡と傳世鏡』白石太郎編『古代を考える 古墳』吉川弘文館、

一九八九年三月

『先秦時代の武漢』『はるかなる長江——中國武漢文物展』大分市歴史資料館、一九九〇年一月

『漢代の出土文物にみる古代スポーツ』『月刊しにか』第一卷第六號、一九九〇年九月

『卑彌呼の鏡』都出比呂志・山本三郎編『邪馬臺國の時代』木耳社、一九九〇年十月

『中國鏡による彌生時代實年代論』『考古學ジャーナル』三二五、一九九〇年十月

『吳越の青銅器文化』『吳越の風 筑紫の火』東アジア文化交流史研究會、一九九一年一月

『仰韶文化の集落構造』『史淵』第二二八輯、一九九一年二月（姜寶蓮・秦小麗譯）『仰韶文化的聚落結構』『考古與文物』二〇〇一年第六期

『西安の漢唐考古學』『西安出土漢唐陶俑展』飯塚市歴史資料館、一九九一年十一月

『戰國から秦漢への文様の展開』『泉屋博古館紀要』第七卷、一九九一年三月

『秦漢金文の研究視角』『古代文化』第四三卷九號、一九九一年九月

『滋賀縣雪野寺跡發掘調査の概要』（共著）『塑像出土古代寺院の總合的研究』京都大學文學部考古學研究室、一九九二年三月

『浮彫式獸帶鏡と古墳出現期の社會』『出雲における古墳の出現を探る』出雲考古學研究會、一九九二年三月

『漢墓出土の西域系文物』『倭と越 日本文化の原郷をさぐる』東アジア文化交流史研究會、一九九二年五月

『江南農耕文化のひろがり』『彌生の王國』東アジア文化交流史研究會、一九九三年五月

『馬車から騎馬へ』『月刊しにか』第四卷第七號、一九九三年七月

『樂浪漢墓出土の鏡』『彌生人の見た樂浪文化』大阪府立彌生文化博物館圖錄一七、一九九三年十月

- 「中國先史時代の戦争」『古文化談叢』第三〇集、一九九三年八月（張玉石譯）
- 「中國新石器時代の戦争」『華夏考古』一九九七年第三期）
- 「後漢鏡の編年」『國立歷史民俗博物館研究報告』第五五集、一九九三年十二月
- 「兩方蛇鈕金印」『中國歷史博物館館刊』一九九三年第一期
- 「中國先史時代玉器の生産と流通」川勝守編『東アジアにおける生産と流通の歴史社會學的研究』中國書店、一九九三年十二月（姜寶蓮譯）中國史前時期玉器的生産與流通』『考古與文物』一九九五年第六期）
- 「三角縁神獸鏡の時代」『まちと暮しの京都史』文理閣、一九九四年三月
- 「後期の銅鏡」日本考古學協會編『シンポジウム東アジアと九州』學生社、一九九四年四月
- 「須玖岡本王墓の中國鏡」『奴國的首都 須玖岡本遺跡』吉川弘文館、一九九四年五月
- 「中原龍山文化の居住形態」『日本中國考古學會會報』第四號、一九九四年九月
- 「ひつぎの出現と變容」文明のクロスロード・ふくおか地域文化フォーラム 實行委員會編『福岡からアジアへ』二、一九九五年二月
- 「漢・六朝代の紀年鏡」『考古學ジャーナル』三八八、一九九五年五月
- 「湖北陰湘城遺址一九九五年春の調査」『日本中國考古學會會報』第五號、一九九五年十一月
- 「湖北陰湘城遺址の日中共同調査」文明のクロスロード・ふくおか地域文化フォーラム實行委員會編『福岡からアジアへ』三、一九九五年十一月
- 「區系類型論とマルクス主義考古學」考古學研究會編『展覧考古學』、一九九五年六月
- 「古代中國の瓷器製作技術」『月刊しにか』第六卷第七號、一九九五年七月
- 「樂浪出土鏡の諸問題」『考古學ジャーナル』三九二、一九九五年九月
- 「灰釉陶（原始瓷）器の出現」『日中文化研究』第七號、一九九五年七月
- 「中國鏡からみた彌生・古墳時代の年代」『考古學と實年代』埋藏文化財研究會、一九九六年八月
- 「湖北陰湘城遺址一九九六年の調査」文明のクロスロード・ふくおか地域文化フォーラム實行委員會編『福岡からアジアへ』四、一九九六年九月
- 「湖北陰湘城遺址研究（Ⅰ）一九九五年日中連合考古發掘報告」（共著）『東方學報』京都第六九冊、一九九七年三月
- 「戰國楚墓を掘る」文明のクロスロード・ふくおか地域文化フォーラム實行委員會編『福岡からアジアへ』五、一九九七年十月
- 「長江中流域における城郭集落の形成」『戰國楚墓と出土漆器の共同研究』『日本中國考古學會會報』第七號、一九九七年十一月
- 「農耕社會と文明の形成」鶴間和幸編『岩波講座 世界歷史』第三卷、一九九八年一月（秦小麗・姜寶蓮譯）『農業社會與文明的形成』『華夏考古』二〇〇二年第一期）
- 「蟠螭紋鏡の文化史」『泉屋博古館紀要』第一四卷、一九九八年三月
- 「長江中流域における城郭集落の形成」『東洋學報』第七九卷第四號、一九九八年三月
- 「吳越の青銅器文化」内藤大典編『虹を見た』海援社、一九九八年四月
- 「秦漢帝國の對外交渉とその美術」『金獸』『金裝飾品』『金竈』『銀盤』『銀豆』『四乳蟠螭文鏡』『彩繪車馬人物鏡』『鍍金方格規矩四神鏡』『獸帶鏡』『中平六年方銘四獸鏡』曾布川寛・谷豐信編『世界美術大全集 東洋編』第二卷、小學館、一九九八年八月
- 「商代的動物犧牲」『殷墟發掘七〇周年學術紀念會論文集』中國社會科學院考古研究所、一九九八年十月
- 「魏・西晉王朝と邪馬臺國」『大黃河文明展』日本經濟新聞社、一九九八年九月
- 「公元前二千年前後中國玉器之擴張」鄧聰編『東亞玉器』第一冊、香港中文大學、一九九八年十一月
- 「中國新石器時代の竪穴住居」淺川滋男編『先史日本の住居とその周邊』同成社、一九九八年十二月

- 「戦後日本の中国考古学研究」『日本考古学』第六號、一九九八年十二月
- 「漢帝國の世界戦略と武器輸出」福井勝義・春成秀爾編『人類にとって戦いとよ』戦いの進化と國家の生成』東洋書林、一九九九年三月
- 「龍山文化後期における玉器のひろがり——陝北出土玉器を中心に」『史林』第八二卷第二號、一九九九年三月
- 「漢帝國的軍事」『よみがえる漢王朝』讀賣新聞社、一九九九年四月
- 「文明起源の考古学」『月刊』にか』第一〇卷第九號、一九九九年八月
- 「中国古代王權と祭祀」『考古学研究』第四六卷第二號、一九九九年九月
- 「殷代における畜産の變革」『東方學報』京都第七二冊、二〇〇〇年三月
- 「三ツ塚廢寺跡發掘調査報告」『丹波三ツ塚遺跡』IV、兵庫縣冰上郡市島町、二〇〇〇年三月
- Excavations of Cities: Shijiahe and Yingxiangcheng, Roderick Whitfield and Wang Tao ed. *Exploring China's Past: New Discoveries and Studies in Archaeology and Art*, Saffron, 2000. 7
- 「中國文明の起源」『NHKスペシャル四大文明 中國』NHK出版、二〇〇〇年八月
- 「屈家嶺・石家河文化屬城市文明嗎」嚴文明・安田喜憲編『稻作、陶器和都市的起源』文物出版社、二〇〇〇年十一月
- 「古墳の出現と神獸鏡」『東アジアの古代文化』一〇七號、二〇〇一年五月 (直木孝次郎編『謎につつまれた邪馬臺國』史話日本の古代第二卷、作品社、二〇〇三年に再録)
- 「遼東新石器時代の玉器」『海峽兩岸古玉學會論文專輯』I 國立臺灣大學理學院地質科學系研究報告第三三期、二〇〇一年九月
- 「倭王權の支配構造」『考古学の學際的研究』濱田青陵賞受賞者記念論文集I、昭和堂、二〇〇一年十月
- 「殷周時代の動物供犠」小南一郎編『中國の禮制と禮學』朋友書店、二〇〇一年十月
- 「陝西地區龍山文化的玉器」『故宮學術季刊』第一九卷第二期、二〇〇一年十月
- 二月
- 「中國古代における墓の動物供犠」『東方學報』京都第七四冊、二〇〇二年三月
- 「景初三年銘三角縁神獸鏡の圖像と系譜」『神原神社古墳』加茂町教育委員會、二〇〇二年三月
- 「三星堆文化的譜系」西江清高編『扶桑與若木』巴蜀書社、二〇〇二年四月
- 「位至三公鏡」『王莽鏡』海獸葡萄鏡「鏡」鏡「畫像鏡」鈔「魏晉鏡」夔鳳鏡「虺龍鏡」金印紫綬・銀印青綬「釘」釘拔「楔」鎖「管」工具「黃幢」高麗鏡「後漢鏡」湖州鏡「獸帶鏡」神獸鏡「隋唐鏡」星雲鏡「生口」青大勾珠「前漢鏡」戰國鏡「草葉文鏡」鑿「蝶番」槌「鐵鏡」內行花文鏡「鋸」鑿「白珠」鈇「班布・倭錦・異文雜錦」盤龍鏡「鏡」方格規矩四神鏡「銘帶鏡」木附短弓・矢「鈔」六朝鏡『日本考古學事典』三省堂、二〇〇二年五月
- 「考古學からみた漢と倭」白石太一郎編『日本の時代史』第一卷、吉川弘文館、二〇〇二年六月
- The Place of Eht-t'ou Culture in the Formation of the State, *Transactions of the International Conference of Eastern Studies*, No. XLVII, 2002, 11
- 「中國の初期王權研究の視點」『王墓の成立とその祭祀』古代王權の誕生I 東アジア編 角川書店、二〇〇三年一月
- 「先秦時代の供犠」『東方學報』京都第七五冊、二〇〇三年三月
- 「後漢代大型墓の構造と規格」立命館大學考古學論集』III、二〇〇三年五月
- 「陶磁器のはじまり」『中國の美術』昭和堂、二〇〇三年十月
- 「商代的動物犠牲」『考古學集刊』一五、二〇〇四年二月
- 「都市形成の日中比較研究」『文化の多様性と比較考古学』考古學研究會五〇周年記念論文集、二〇〇四年三月
- 「中國初期國家の形成過程」『國立歷史民俗博物館研究報告』第一一九集、二〇〇四年三月

- China, die koreanische Halbinsel und die Yayoi-Kultur. *Zeit der Morgenröte: Japans Archäologie und Geschichte bis zu den ersten Kaisern*. Reiss-Engelhorn-Museen, 2004. 7
- The Diffusion of Ritual Jades during the Late Longshan Period. Xiaoneng Yang ed. *New Perspectives on China's Past, Chinese Archaeology in the Twentieth Century*, Vol. 1. Yale University Press, 2004. 10
- 『中國古代の動物供犠』『動物と儀禮——東アジアの中の日本——』國學院大學二二世紀COEプログラム考古學シリーズ三、二〇〇四年十二月
- 『雲岡石窟通樂寺の發見』(共著)『漢字と文化』第四號、二〇〇五年二月
- 『周代の身分制』小南一郎編『中國文明の形成』朋友書店、二〇〇五年三月
- 『夏王朝の成立』『泊園』第四四號、二〇〇五年十月
- 『雲氣禽獸紋鏡の研究』『考古論集』川越哲志先生退官記念論文集、二〇〇五年十一月
- 『中國・朝鮮半島と彌生文化』『ドイツ展記念概説 日本の考古學』上卷、學生社、二〇〇五年十二月
- 『前漢鏡の宇宙』『三角縁神獸鏡の成立——徐州鏡との關係を中心に』『鏡の中の宇宙』シリーズ山東文物六、山口縣立萩美術館・浦上記念館、二〇〇五年十二月
- 『禮制からみた國家の成立』田中良之・川本芳昭編『東アジア古代國家論』すいれん舎、二〇〇六年四月
- 『中國古代の農耕儀禮と王權』『東洋史研究』第六五卷第三號、二〇〇六年十一月
- 『王朝成立的考古學證據』杜金鵬・許宏編『二里頭遺址與二里頭文化研究』科學出版社、二〇〇六年十二月
- 『幻の「夏」王朝の發見』『資料に見る最新中國史』アジア遊學九六、二〇〇七年一月
- 『傳沖ノ島出土の透彫り金具について』茂木雅博編『日中交流の考古學』同成社、二〇〇七年三月
- 『北魏方山水固陵の研究——東亞考古學會一九三九年收藏品を中心として』(共著)『東方學報』京都第八〇冊、二〇〇七年三月
- Art and Archaeology of the Western Regions and Han China. Opening up the Silk Road. *The Han and the Eurasian World, Record No. 8 on The Silk Roads-Nara International Symposium*, 2007. 8
- 『雲岡石窟寺的考古學研究』(共著)『日本東方學』第一輯、中華書局、二〇〇七年八月
- 『漢字のはじまりと擴散』『漢字文化三千年』國際シンポジウム報告書、京都大學人文科學研究所、二〇〇八年二月
- 『玉石器』「土製品」貝・骨角牙器」四平山積石塚の玉石器』『遼東半島四平山積石塚の研究』柳原出版、二〇〇八年三月
- 『中國鏡の年代』『新彌生時代のはじまり第三卷 東アジア青銅器の系譜』雄山閣、二〇〇八年五月
- 『宋明代の古鏡研究——青柳種信の參考にした漢籍』『九州と東アジアの考古學』九州大學考古學研究室五〇周年記念論文集刊行會、二〇〇八年五月
- 『漢鏡二期における華西鏡群の成立と展開』『東方學報』京都第八三冊、二〇〇八年九月
- 『中國における初現期の都市』『古代東アジアにおける都市の成立』奈良女子大學二二世紀COEプログラム報告集二二、二〇〇八年十一月
- 『中國古代の青銅器生産』『國學院雜誌』第一〇九卷第一一號、二〇〇八年十一月
- 『魏の民間歌謠と鏡銘』『東アジアの古代文化』一三七號、二〇〇九年一月
- 『東アジア古代の文字使用』『漢字のはじまりと擴散』高田時雄編『漢字文化三千年』臨川書店、二〇〇九年二月
- 『型式學と年代』『東アジア古代の青銅器分布』『中國考古學と社會主義の考古學』泉拓良・上原真人編『考古學——その方法と現狀』放送大學教育振興會、二〇〇九年三月

- 「古墳時代の國際環境」『古墳時代Ⅱ くらしと社會』鳥取縣の考古學第五卷、鳥取縣埋藏文化財センター、二〇〇九年三月
- 「前漢鏡銘の研究」『東方學報』京都第八四冊、二〇〇九年三月
- 「東アジア古代の玉器」『國際交流展 玉と王權』宮崎縣立西都原考古博物館、二〇〇九年十月
- 「景初三年における三角縁神獸鏡の成立」『先史學・考古學論究』V甲元眞之先生退任記念、二〇一〇年二月
- 「漢鏡五期における淮派の成立」『東方學報』京都第八五冊、二〇一〇年三月
- 「青谷上寺地遺跡出土の漢鏡」『青谷上寺地遺跡出土品調査研究報告』六金屬器、鳥取縣埋藏文化財センター、二〇一一年三月
- 「古鏡研究一千年——中國考古學のパラダイム」『東洋史研究』第六九卷第四號、二〇一一年三月
- 「中國のはじまり——夏殷周三代の洛陽」氣質澤保規編『洛陽學國際シンポジウム報告論文集』明治大學東洋史資料叢刊八、二〇一一年三月
- 「後漢鏡銘の研究」『東方學報』京都第八六冊、二〇一一年八月
- 「東アジア情勢と古墳文化」廣瀬和雄・和田晴吾編『講座日本考古學7 古墳時代(上)』青木書店、二〇一一年十二月
- 「北魏方山永固陵研究」(共著)『日本東方學』第二輯、中華書局、二〇一二年三月
- 「六世紀のソグド系響銅——和泉市久保惣記念美術館所藏品の調査から」(共著)『史林』第九五卷第三號、二〇一二年五月
- 「鏡からみた漢と倭の交流」『海を渡った鏡と鐵——青谷上寺地遺跡の交流を探る』鳥取縣埋藏文化財センター、二〇一二年九月
- 「古代中國の農業と食文化」『NHKスペシャル中國文明の謎』NHK出版、二〇一二年九月
- 「中國最古の宮廷儀禮を再現する」NHK「中國文明の謎」取材班『中夏文明の誕生——持續する中國の源を探る』講談社、二〇一二年十二月
- 「後漢鏡における淮派と吳派」『東方學報』京都第八七冊、二〇一二年十二月
- 「名工杜氏傳——後漢鏡を變えた匠」岡内三眞編『技術と交流の考古學』同成社、二〇一三年一月
- 「漢王朝と倭」柳田康雄編『彌生時代政治社會構造論』雄山閣、二〇一三年二月
- 「山中の佛教寺院——西インドの石窟寺院を中心として」鳥取環境大學淺川研究室編『聖なる巖——窟の建築化をめぐる比較研究』、二〇一三年三月
- 「三至六世紀東西文化交流的見證・南朝銅器的科技考古研究」(共著)『南方文物』第一期、二〇一三年三月
- 「漢三國西晉時代の紀年鏡——作鏡者からみた神獸鏡の系譜」『東方學報』京都第八八冊、二〇一三年十二月
- 「河北省定州北魏石函出土遺物再研究」(共著)『考古學集刊』第一九集、二〇一三年十二月
- 「名工孟氏傳——後漢鏡の轉換期に生きる」飯島武次編『中華文明の考古學』同成社、二〇一四年三月
- 「後漢鏡淮派の先驅者たち——三鳥・銅鑿傳」高倉洋彰編『東アジア古文化論攷』中國書店、二〇一四年三月
- 「漢鏡分期研究」清華大學漢鏡文化研究課題組『漢鏡文化研究』上册、北京大學出版社、二〇一四年四月
- 「北魏懷朔鎮佛寺遺址研究」(共著)內蒙古博物院・內蒙古自治區文物考古研究所編『中國北方及蒙古、貝加爾、西伯利亞地區古代文化(中)』II、科學出版社、二〇一五年九月
- 「後漢鏡の作家たち」『古鏡——その神祕の力』川崎市民ミュージアム、二〇一五年十月
- 「古鏡清玩——宋明代の文人と青柳種信」『清玩 文人のまなざし』京大人文研漢籍セミナー五、研文出版、二〇一五年十二月
- 「罇子」『灰陶穀倉』『綠釉狗』『青磁虎子』『龍神王像(部分)』『灰陶加彩女字騎馬俑』『灰陶加彩胡人俑』『白玉彌勒佛倚坐像』國立新美術館・大

- 原美術館編『はじまり、美の饗宴 すばらしき大原美術館コレクション』NHKプロモーション、二〇一六年一月
- 「雲岡石窟における大型窟の編年」『國華』第一四五一號、二〇一六年九月
- 「紀年銘をもつ神獸鏡の新例」『史林』第九九卷第五號、二〇一六年九月
- 「雲岡中期における佛教圖像の變容」『東方學報』京都第九一冊、二〇一六年十二月
- 「中國鏡の歴史 齊家文化と南北朝」『緑松石象嵌鋸齒縁鏡—「鋸齒縁鏡」—「蟬螭紋鏡」—「饗登紋鏡」—「羽狀地紋鏡」—「彩繪人物車馬鏡」—「異體字銘帶鏡」—「清銀鏡」—「四葉座素紋鏡」—「畫像鏡」—「金銀平脫車馬紋鏡」—「千石コレクション—鏡鑑編」兵庫縣立考古博物館加西分館・古代鏡展示館、二〇一七年三月
- 「北魏平城期の雲岡石窟」濱田瑞美編『アジア佛教美術論集 東アジアI 後漢・三國・南北朝』中央公論美術出版、二〇一七年五月
- 「中國古鏡を読む」『引き繼がれるコレクター—魂 浦上父子コレクション展』岐阜縣現代陶藝美術館、二〇一七年九月
- 「鏡にあらわされたシルクロードの奇獸」『科學』第八七卷第一〇號、岩波書店、二〇一七年十月
- 「東漢鏡名工傳——藝術家的出現」陳珏主編『心與物融——饒宗頤先生百歲華誕』漢學與物質文化」國際研討會論文集」聯經出版事業股份有限公司、二〇一八年一月
- 「浙江嵯州漢晉文物調查報告」『史林』第一〇一卷第五號、二〇一八年九月
- 「中國の海の祭祀」春成秀爾編『世界のなかの沖ノ島』季刊考古學・別冊二七、雄山閣、二〇一八年十一月
- 「長樂王丘穆陵亮夫人尉遲造像記」「二弗造像記」「比丘慧成造像記」「侍中護軍將軍北海王元詳造像記」「都督關口遊徼校尉司馬解伯達造像記」「鉅鹿魏靈藏河東薛法紹二人等造像記」「北海王國太妃高造像記」「高樹解伯都三十二人等造像記」「比丘惠感造像記」「比丘法生造像記」「太中大夫安定王元燮造像記」「比丘尼慈香慧政造窟記」「馬振拜張子成許興族三十四人造像記」稻本泰生・安岡素子編『センター研究年報二〇一七』京都大學人文科學研究所附屬東アジア人文情報學研究センター、二〇一八年二月
- The Investigation and Study of the Yun-kang Grottoes, TRANSACTIONS OF THE INTERNATIONAL CONFERENCE OF EASTERN STUDIES, No. 63, The Toho Gakkai, 2018, 12
- 「雲岡石窟の初期造像——曇曜五窟の佛龕を中心として」『東方學報』京都第九三冊、二〇一八年十二月
- 「王莽鏡論」『東方學報』京都第九四冊、二〇一九年十二月
- 「舶載された王莽宮廷鏡——大阪府紫金山古墳出土方格規矩四神鏡の鉛同位體比分析から」『史林』第一〇四卷第五號、二〇二二年九月
- 「千石コレクション漢六朝青銅器の化學分析」(共著)『東方學報』京都第九六冊、二〇二二年十二月
- 「中國で發見された景初三年鏡」『史林』第一〇五卷第五號、二〇二二年九月
- 「畫紋帶神獸鏡の東傳——型式と鉛同位體比からみた九子派の動態」『東方學報』京都第九七冊、二〇二二年十二月
- The Transformation of Rules for Chariots and Carriages in the Han-Chin Period, TRANSACTIONS OF THE INTERNATIONAL CONFERENCE OF EASTERN STUDIES, No. 66, pp. 91-92, The Toho Gakkai, 2022, 12
- Archaeological Research on the Han-Chin Transition, ibid. The Toho Gakkai, 2022, 12
- 「中國古代の車馬」諫早直人・向井佑介編『馬・車馬・騎馬の考古學——東方ユーラシアの馬文化』臨川書店、二〇二三年三月
- 翻譯
大阪二一世紀協會編『金龍・金馬と動物國寶展—中國陝西省出土文物』(共譯)、一九八七年

中國社會科學院考古研究所編著「東周時代」『新中國の考古學』平凡社、一

九八八年二月

方起東著「集安高句麗墓壁畫の舞樂」『好太王碑と集安の壁畫古墳』木耳社、

一九八八年九月

梁上椿著『嚴窟藏鏡』（共譯）同朋舎、一九八九年十二月

郭大順著「遼寧先史考古學と遼河文明の探索」『九州考古學』六六號、一九

九一年十二月

許玉林著「遼東半島の石棚と大石蓋墓」『九州考古學』六六號、一九九一年

十二月

徐萃芳著「中國考古學の回顧と展望」『古文化談叢』第二七集、一九九二年

三月

福岡市博物館編『唐代壁畫展』（共譯）福岡市博物館圖録、一九九二年

嚴文明著「中國古代文化三系統說」『日本中國考古學會會報』第四號、一九

九四年十一月

趙海洲著『中國古代車馬の考古學的研究』（監譯）科學出版社東京・國書刊

行會、二〇一四年九月

霍宏偉・史家珍主編『洛陽銅鏡』（監譯）科學出版社東京、二〇一六年七月

許宏著「中國古都の恒と變——古代の城郭配置を中心として」『東方學』第

一三九輯、二〇二〇年一月

書評

飯島武次著『夏殷文化の考古學研究』『史林』第六九卷第一號、一九八六年

京都府埋藏文化財調査研究センター編『謎の鏡——卑彌呼の鏡と景初四年

銘鏡』『同朋』一三四號、一九八九年六月

甲元眞之著『中國新石器時代の生業と文化』『古代文化』第五四卷第三號、

二〇〇二年三月

「西周王朝の原郷をさぐる」（曹璋著『周原遺址與西周銅器研究』）『東方』二

九六號、二〇〇五年十月

その他

『考古資料圖録』（共著）辰馬考古資料館、一九八八年十月

『彌生・古墳時代遺跡出土鏡データ集成』（共著）『國立歷史民俗博物館研究

報告』第五六集、一九九四年三月

「三世紀の東アジア情勢と鏡の贈與」『卑彌呼の銅鏡百枚の謎——銅鏡の製

作と分布』福岡縣教育委員會、一九九一年

「馬具の源流 慕容鮮卑族に」『朝日新聞』一九九二年三月二四日

「長安の祕寶展 降龍博山爐」『日本經濟新聞』一九九二年十月二九日

「三角縁神獸鏡」『見る・讀む・わかる 日本の歴史』1、朝日新聞社、一九

九二年十二月

「幻の中國王朝、ヴェールを脱ぐ」『藝術新潮』一九九三年七月號

「青龍三年鏡を追う」『京都新聞』一九九四年三月三十一日

「外國考古學の動向 中國」『日本考古學年報（一九九二年度版）』四五、一

九九四年七月

「京都大田南五號墳と青龍三年銘鏡」『平凡社百科年鑑一九九五』、一九九五

年四月

「中國古代における戰爭の起源」『倭國亂』第三二回歷博フォーラム、一九九

六年十月

「中國初期稻作文化札記」『稻作起源を探る』日本文化財科學會、一九九六年

十一月

「湖北陰湘城遺址一九九六年春の調査」『日本中國考古學會會報』第六號、一

九九六年十一月

連載「龍の子孫たち」『京都新聞』一九九七—一九九八年（共同發掘）四月

一五日、「田植えの季節」五月二〇日、「古爲今用」六月一七日、「墓

泥棒」七月一五日、「レンガ」八月二日、「家畜との共生」九月九日、

「ダチョウ料理」一〇月一四日、「ペットボトル」十一月一日、「北

京ダック革命」十二月九日、「食事のならわし」一月六日、「自由市

- 場」二月三日、「カギ」三月三日、「刺身」三月三二日）
 ○四年九月
- 「中國古代の動物供犠」『日本考古學協會第六三回總會發表要旨』、一九九七年五月
- 「安満宮山古墳の青龍三年鏡出土」『毎日新聞』一九九七年八月七日
- 「卑彌呼の鏡」『サンデー毎日』臨時増刊、一九九八年三月四日號
- 「三世紀の政治史を解く手がかり」『朝日新聞』一九九八年四月三日
- 「商代前期城郭遺跡の調査」(共著)『日本考古學協會第六六回總會研究發表要旨』、二〇〇〇年五月
- 「儀禮に潜む古墳期の支配構造」『朝日新聞』二〇〇〇年十月八日朝刊
- 「解説」水野清一著『中國文明の歴史Ⅰ 中國文化の成立』中公文庫、二〇〇一年一月
- 「『人間』を探究する考古學」『熊本日日新聞』二〇〇一年七月二日
- 「座談會 都市の起源② 都市の王權と宇宙論」(共著)『建築雜誌』一一七卷一四八八號、二〇〇二年五月
- 「解説Ⅰ」岡崎敬著『シルクロードと朝鮮の考古學』第一書房、二〇〇二年六月
- 「中國からみた森尾古墳の方格規矩四神鏡」『とおか文化財リーフレット』
 一、豊岡市教育委員會、二〇〇二年八月
 二、岡崎敬著『古代中國の考古學』第一書房、二〇〇二年十一月
- 「解説」岡崎敬著『紀元前三千年紀の遼東半島』『日本考古學協會第六九回總會研究發表要旨』、二〇〇三年五月
- 「神まつりの系譜(上)」『日本經濟新聞』二〇〇三年八月二三日夕刊
- 「神まつりの系譜(下)」『日本經濟新聞』二〇〇三年八月三〇日夕刊
- 「卑彌呼の共立」『歴史讀本』二〇〇三年十一月號
- 「兪老師に學んだこと」『博古研究』第二七號、二〇〇四年四月
- 「雲岡石窟出土瓦の研究」(共著)『日本考古學協會第七〇回總會研究發表要旨』、二〇〇四年五月
- 「討論のまとめ 國家の形成」(共著)『考古學研究』第五一卷第二號、二〇〇四年九月
- 「中國農耕儀禮の東方傳播」西本豊弘編『彌生農耕の起源と東アジア——炭素年代測定による高精度編年體系の構築』科研費(學術創成)成果報告書、二〇〇五年三月
- 「雲岡石窟出土遺物の研究」(共著)『日本考古學協會第七一回總會研究發表要旨』、二〇〇五年五月
- 「雲岡石窟の出土品」『人文』第五二號、二〇〇五年六月
- 「王權が開いた『玉の道』」『週刊シルクロード紀行』五號、朝日新聞社、二〇〇五年十一月
- 「座談會 夏王朝探索——現状と展望」(共著)『東北學院大學論集 歴史と文化』第四一號、二〇〇六年三月
- 「石窟以前の雲岡」『日本考古學協會第七二回總會研究發表要旨』、二〇〇六年五月
- 「異文化理解」(共著)『天王寺「學びのもり」から——附中・高卒業生對談集』、新風書房、二〇〇六年十一月
- 「西域美術と漢代文物」『シルクロードを拓く——漢とユーラシア世界』シルクロード・奈良國際シンポジウム記録集No.8、二〇〇七年一月
- 「私が影響を受けた考古學者 林巳奈夫」『文化遺産の世界』第二四號、二〇〇七年二月
- 「中國考古學からのコメント」『長江流域文化研究所年報』第五號、二〇〇七年三月
- 「古代中國の榮華を伝える『殷墟』」『Newspaper』第二七卷第一二號、二〇〇七年十二月
- 「漢字のはじまりと擴散」『漢字文化三千年』國際シンポジウム報告書、京都大學人文科學研究所、二〇〇八年二月
- 「濱田青陵の中國青銅器研究——中國學のパラダイムに關連して」『岸和田市文化賞 濱田青陵賞二十周年記念誌』岸和田市・岸和田市教育委員會、二〇〇八年三月

- 「中國古代の漢字」『オーブン・フォーラム』漢字文化の今 五「報告書」、京都大學人文科學研究所、二〇〇八年三月
- 「中國古代神殿三則」『第二回濱田青陵賞授賞式』岸和田市文化賞、二〇〇八年九月
- 「墳墓から王權の成立を読み解く」『婦負のクニ』成立のころ 富山市教育委員会、二〇〇八年十月
- 「中國の國家形成における銅と鐵」『第二回濱田青陵賞授賞式』岸和田市文化賞、二〇〇九年九月
- 「解説」林巳奈夫著『中國古代の生活史』吉川弘文館、二〇〇九年十二月
- 「古鏡研究と收藏家たち」『人文』第五八號、京都大學人文科學研究所、二〇一一年三月
- 「漢鏡の圖像と銘文——鏡に鑄こまれた人びとのこころ」『文學と美術』京都國立博物館二〇一〇年夏期講座、二〇一一年七月
- 「中國早期城市形成的四個階段」『夏商都邑考古暨紀念偃師商城發現三〇周年國際學術研討會』、二〇一三年十月
- 「洛陽出土鏡と日本——監譯者あとがき」霍宏偉・史家珍主編『洛陽銅鏡』科學出版社東京、二〇一六年七月
- 「三角縁神獸鏡は卑彌呼へ贈られた鏡か?」『歴史REAL邪馬臺國』洋泉社MOOK、二〇一七年十一月
- 「鏡が語る古代史」『山陰中央日報』二〇一七年十二月六日文化欄
- 「銅の圓盤を磨き鏡にした古代中國」『公明新聞』二〇一八年三月一八日
- 「千石コレクション古代中國鏡の魅力を語る」(共著)『兵庫縣立考古博物館研究紀要』第一二號、二〇一八年三月
- 「探検大學のバイオニアたち——長廣敏雄著『雲岡日記』から」『人文』第六六號、京都大學人文科學研究所、二〇一九年六月
- 「中國文明とその源流を探る——考古學からのアプローチ」『紅萌』京都大學廣報誌第二二號、二〇一九年九月
- 「KURENAI ロンテックス紹介」『静脩』京都大學圖書館機構報四九卷三號、二〇二二年十月
- 「中日學術研究前線 第二輯 考古學、照亮古人的生活文化」『孔子學院』〇六、二〇二二年十一月
- 「商代甲骨卜辭中の建築名稱と建築禮制」へのコメント 田中淡・高井たかね編『傳統中國の庭園と生活空間』國際シンポジウム報告書、京都大學人文科學研究所、二〇二三年六月
- 「遺跡調査で世界的な貢獻——シルクロード研究者、樋口隆康先生を悼む」『毎日新聞』二〇一五年四月二三日夕刊
- 「樋口隆康先生のご逝去を悼む」『日本考古學協會會報』No. 一八五、二〇一五年八月
- 「追悼・樋口隆康先生」『以文』五八、二〇一五年一月
- 「樋口隆康先生と金文研究会」『泉屋博物館紀要』第三二卷、二〇一六年十二月
- 「序文」秦小麗著『中國初期國家形成の考古學的研究 土器からのアプローチ』六一書房、二〇一七年八月
- 「解題」林巳奈夫著『中國古代車馬研究』臨川書店、二〇一八年十月
- 「終刊の辭」『東洋學文獻類目』二〇一七年度、京都大學人文科學研究所附屬東アジア人情報學研究センター、二〇一九年三月
- 「禮制的形成與早期中國——岡村秀典教授訪談錄」(共著) 李水城主編『穿越古今・海外考古大家訪談』下、上海古籍出版社、二〇二〇年五月
- 「一〇〇年前の雲岡石窟寫眞」『人文』第六七號、京都大學人文科學研究所、二〇二〇年六月
- 「總合コメント」東北學院大學アジア流域文化研究所『アジア流域文化研究』VIII、二〇二二年三月